

# 薬連ハイライム

## 全国若手薬剤師フォーラムが開催される

令和6年10月26日から27日の両日にわたり、全国若手薬剤師フォーラムがクロスウェーブ船橋にて開催された。

はじめに岩月会長より、それぞれの立場になると様々な景色が見えてくるが、そこで得た情報を吟味して、どのように生かすかを薬剤師の未来について考えていただきたいと挨拶があった。

次に神谷まさゆき参議院議員より、薬剤師のことをわかっている議員を国会に送り出すことが政策に直結するため、薬剤師と政治の距離を近づけなければならないと挨拶された。

全員による記念撮影の後、本田あきこ参議院議員の国会報告があった。医行為は、医師の指示のもと行える業務であるが、調剤は薬剤師の独占的な職能であることを認識しておいてほしい。第8次医療計画に薬剤師の業務が明記された。自民党の政策にもか

かりつけ薬剤師・薬局を明記しているが、薬剤師の立場をよくするためには政治の力が必要だと訴えた。

次に、茨城県と岡山県から昨年のフォーラム後の地域の活動事例報告の後、昨年のフォーラムで掲げた計画について、達成できたことや達成できなかった問題点を各グループで共有するため、ディスカッション（SGD）を行った。

その後、SNSを活用した若手の仲間づくりについて、原口副会長から講演があり、その内容をヒントに次の参議院選挙に向けて各都道府県での行動計画をSGDにより検討し、まとめた。SGD後、懇親会を行って、1日目が終了した。

2日目は大澤副会長より、明日から参議院選挙に切り替えて活動をお願いしたいとの挨拶によりスタートし、前日のSGDでまとめた各都道府県の令和7年7月までの行動計画をそれぞれ発表した。

最後に川田幹事長より総括があり、フォーラムは閉会となった。

## オレンジ日記

今年1年、そして2025年へ

参議院議員・薬剤師  
本田 顕子



今年も残りひと月程となりました。

元日に能登半島地震が発生してから間もなく1年。全国各地の大規模災害からの復旧・復興は、厳しい生活環境にありながらも被災地の皆様の強い心と全国からの温かいご協力に支えられながら、これまでもこれからも総力を挙げて取り組む課題です。11月に防災庁設置準備室ができました。防災は元より、被災後速やかに医療体制を整えて減災につなげられる組織とすべく私も力を尽くします。

文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官を拝命してから1年が過ぎました。議員生活で初めて政府側に身を置いて公務に勤しんだ直後の思いがけない人事でしたが、政治に志を立てたきっかけが薬学教育6年制の私にとって、国会対応のほか、創薬推進の基盤づくりや、研究・文化・芸術分野の最前線で活躍する皆様との関係構築などが文科省でできたことは今後につながると思っています。

総裁選、衆院総選挙と続いた大きな論戦の場において、社会保障制度に関する政策の重要性がどの程度国民の皆様へ届いたかを顧みると、来年に向けて自らが伝えていく必要性を感じています。

年末には来年度予算案の編成が控え、年明けの通常国会には薬機法改正法案の提出が見込まれています。

引き続き皆様からご意見等をいただきながら、参議院議員としての5年余りの経験と実績を生かし、来夏に向けて更にそれらを重ね続けて、国民のいのちと暮らしを守るために頑張っていきたいと思います。

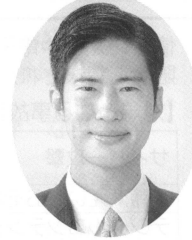
本気だ！ ホンダ！！

これからもよろしくお願ひ申し上げます。

## 政幸だより

離島における薬剤師不足解消への取り組み

参議院議員・薬剤師  
神谷 政幸



令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問しました。前回はドローンを利用した医薬品配送についてご紹介しました。今回は病院薬剤師の派遣事業をご紹介します。

長崎大学病院薬剤部では2019年10月から福江島の富江病院に現在まで延べ9名の薬剤師を、中通島の上五島病院には2022年10月～2023年6月まで延べ2名の薬剤師を派遣してこられました。

富江病院は薬剤師1人施設です。薬剤師の派遣期間は約半年間で、内服・外用調剤、注射薬調剤、麻薬管理、抗がん薬管理、医薬品の購入管理、そして外来患者の服薬指導など、幅広い業務を行っています。医師、看護師、検査技師などの多職種はもちろん、近隣の保険薬局とも密接に協力して仕事に取り組んでおられました。

院長先生は、派遣薬剤師が調剤業務のほかマニュアルの整備や看護師向けの資料作成、バンコマイシンの投与設計なども行っており、大学病院で教育を受けた薬剤師が地域の病院に派遣されることで、抗がん薬や麻薬などの薬物療法に関する知識が充実し、職員の薬物療法に対する意識も向上していると評価されました。また、医療安全の面でも良好な結果が得られています。離島では人材が少なく、薬剤師1人の施設では採用が非常に難しく、薬剤師の教育も困難です。大学病院からの薬剤師派遣は非常に助かっているとおっしゃっていました。

上五島病院では、複数の薬剤師が配置されています。奨学金制度を利用して、今後、数名の薬剤師の採用が確保されてはいるものの、将来を見据えて継続的に薬剤師を採用し続けることが重要と伺いました。薬剤師確保のための対策は取られていますが、まだ十分とは言えません。政治の立場からもしっかりと支援してまいります。

結びに、この場をお借り致しまして、今回の視察にご尽力いただきました長崎大学病院の大山薬剤部長と日本病院薬剤師会の武田会長に御礼を申し上げます。